



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

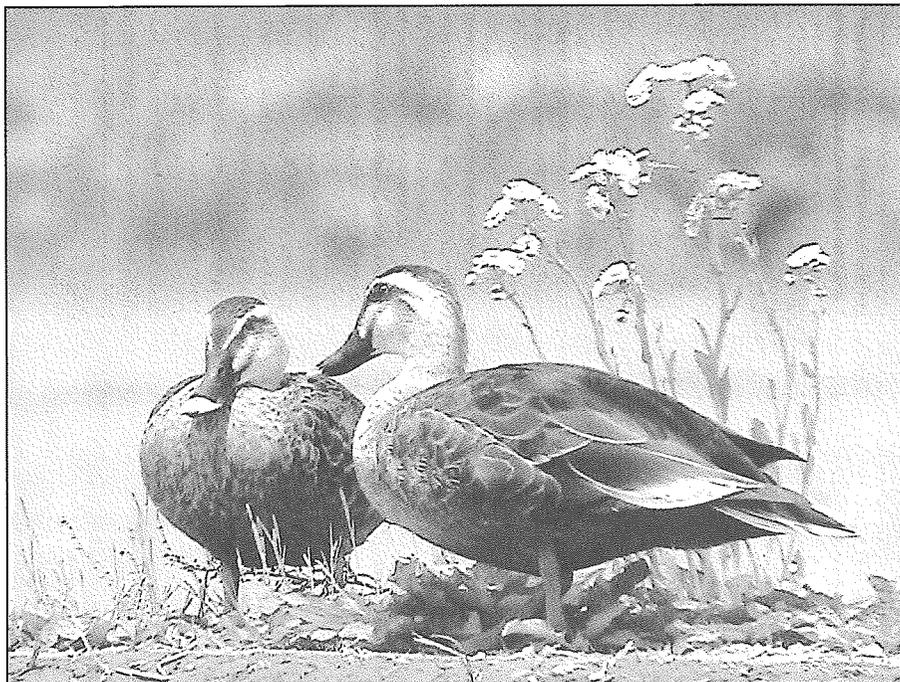
しろばと

2004.6

No.242

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



東京駅を中心とした50km圏・東京圏での カラスのねぐら分布図と埼玉県内でのようす

日本野鳥の会東京支部・川内 博

東京駅を中心とした100kmの圏内に、現在カラスが何羽いるのか調べてみよう。無謀と思えたこの計画がこの4月末にほぼ完結しました。そこでその全体の結果をお知らせするとともに、埼玉県内の状況を報告したいと思います。調査に協力いただいた皆様にお礼申し上げます。

1. 4年間で完成したねぐら分布図

日本野鳥の会東京支部では、都市部で発生している『カラス問題』に対して、それをきちんと解決しようと、2本の柱を立てて活動をしています。1本は、年1回のペースで実施している「カラスシンポジウム」や「カラスフォーラム」の開催で、昨年はカラスの食糧源となっている『生ごみ対策』について、首都圏各地の自治体からリポートをしてもらい考えました。7回目になる今年は、千葉県我孫子市で開催されている「ジャパンバードフェスティバル」に参加して、一般の方にもこの問題の本質を考えてもらおうと準備中です。もう1本の柱は、カラスの生態や行動を明らかにして、科学的な姿勢で問題解決に臨もうということです。そのために「生ごみとの関係」や「繁殖状況」などの調査を実施しています。今回の調査もその一環です。

この計画を発表したのは4年前。強力な翼を持つカラスに行政のくくりは意味がない。

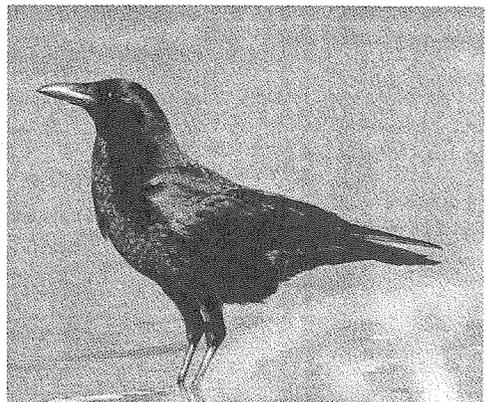
ある程度広範囲に調べなければ、科学的な対策は立てられないということで、人口密度の高い直径100kmの東京圏を設定し調査を呼びかけました。この圏内には東京・埼玉・千葉・茨城・神奈川の各一部が含まれ、行政単位ではまとめでくい一帯です。逆にNPOである「野鳥の会」の横のつながりで、各地域で調査をしてもらい、それをきちんと集計し、大まかでもねぐらの位置と規模を明らかにしようという計画。実際、千葉県野鳥の会をはじめ、各地の支部や鳥関係団体、個人がそれに呼応してもらえました。と同時に、自治体による都県単位の調査が次々と実施される（神奈川県2000年度、東京都2001～03年度、埼玉県2003年度）という幸運も加わり、圏内をほとんど網羅することができました。

2. ねぐら調査の意義

寒風吹きすさぶ冬の夕暮れのねぐら調査は、正直いって辛いものです。何のために調べるのか。疑問に思う人がいると思いますが、ま



ハシブトガラス (編集部)



ハシボソガラス (編集部)

東京圏におけるカラスの 集団ねぐらの分布と規模

(2004年4月30日作成)

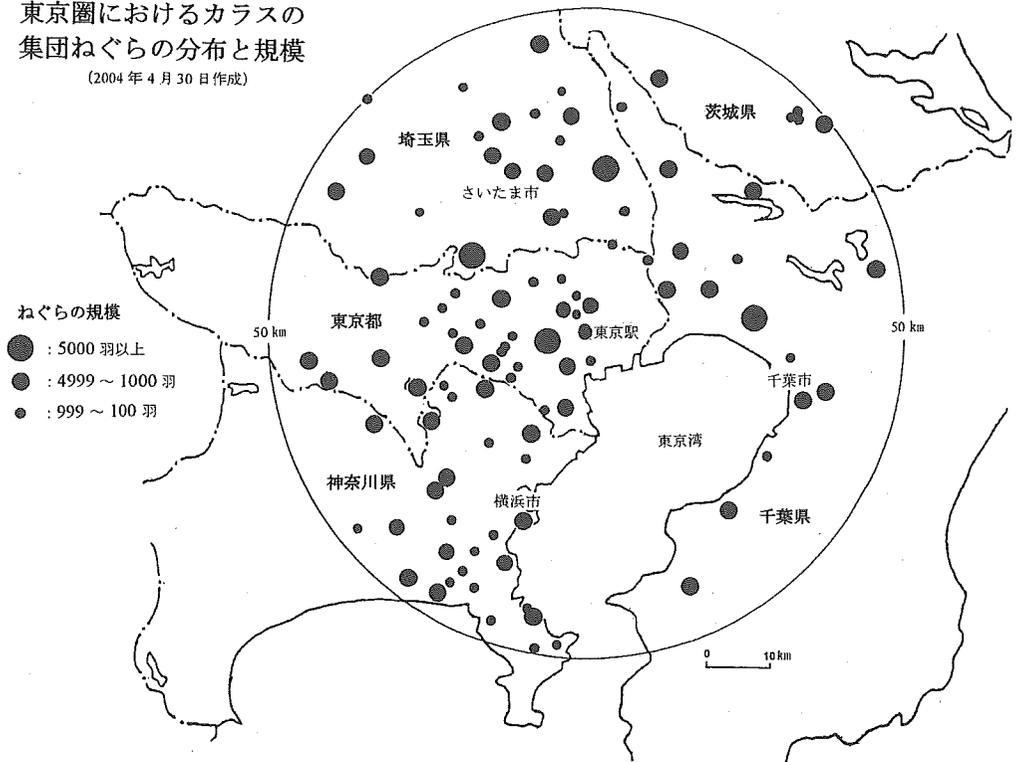


表) 東京圏におけるカラスの集団ねぐら(囀)箇所数と個体数他

行政区	箇所数	個体数(羽)	羽/囀	調査年度
埼玉県	21	33417	1591.3	2003
東京都	32	36143	1129.5	2002
神奈川県	29	32482	1120.1	2000
千葉県	15	32700	2180.0	2001-3
茨城県	5	5194	1038.8	2003
合計	102	139936	1371.9	

ず、生態学の基礎は『個体数の把握』から始まります。対象とする生物の数量を知らずには、科学的な調査はできません。とくに、その数が注目の一つとなっている『カラス問題』に対応するには、おおよそでも何羽いるのかを知るの重要です。その方法として、

秋冬季に集団でねぐらをとるカラスの習性を利用したこの調査は、比較的正確に生息数ができると思われます。数が把握できれば何ができるのか。例えば、さまざまな対策を試行して、何が有効か、効果測定が確実にでき、問題解決へ一歩進めるといわけです。

3. 埼玉県の集団ねぐらの状況

埼玉県におけるこの調査の対象地は県の半分弱の面積です。この地域で100羽以上が集まった集団ねぐら地は21ヵ所でした。今回の調査は、県のカウント調査と重なったので、互いにねぐら地情報を交換をし、一気に掌握することができました。また、各ねぐらにおけるカウント数については、県からデータを提供していただくことができました。（ただし、越谷の久伊豆神社と平林寺については、独自の調査が行われているため、そのデータを使用）

埼玉県で個体数をもっとも多い場所は、新座市の平林寺で、今年2月15日に実施された武蔵野野鳥の会の調査で6328羽がカウントされました（※1）。次いで、越谷市の久伊豆神社で、昨年12月13日に山部直喜さんが中心となって行われた調査で5625羽が記録されました（※2）。以下で1000羽以上の場所は、さいたま市の氷川神社・大宮花の丘・御蔵、所沢市の狭山湖畔、鶴ヶ島市の高倉、久喜市の甘棠院、川口市の長徳禅寺、上尾市の平塚公園、飯能市の宮沢湖畔、春日部市の内牧の10ヵ所で合計16296羽。この12ヵ所で28252羽

を数え、全体の84.5%を占めています。1000羽未満は、蓮田市の城、北本市の北本宿、川口市のグリーンセンター、東松山市の宮沢湖、八潮市の八條親水公園、上尾市の藤波・中分ふるさとと緑の景観地、狭山市の赤坂の森隣地、岩槻市の久伊豆神社、宮代町の東武動物公園です。環境的には、寺社林が8ヵ所（38.1%）と一番多く、合計20387羽（61.0%）でした。これは他の都県と違う特徴のようです。ねぐら間の距離では、もっとも近いのは3km強という例がありましたが、10km前後が多く、東京23区の2倍くらいといったところ です。また、川越市あたりにねぐらがいないという不思議も見つかりました。

4. これからの調査

今回の調査で現状を把握することができました。しかし、これだけの規模の調査をたびたび行うことは困難と思われます。そこで、これらのねぐらの今後をぜひ会員の皆さんでチェックしてもらいたいと思っています。方法等については、別の機会にお知らせします。ぜひご協力下さい。

【引用】※1くぬぎ林23巻4号 ※2 東京支部研究部例会発表



野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

●オオメダイチドリを追加

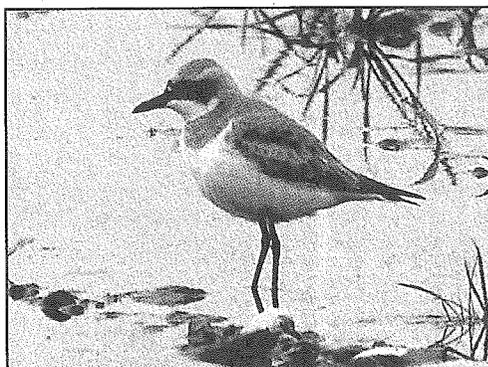
分類 チドリ目チドリ科コチドリ属

英名 Great Sand Plover または Greater Sand Plover

学名 *Charadrius leschenaultii*

2004年4月19日（月）本庄市坂東大橋下流の利根川河川敷で堀越省一会員が撮影。委員会で検討した結果、初めての確認記録として、埼玉県内野鳥目録に追加することになりました。今までは1976年5月秋ヶ瀬での目撃情報があるだけでした。目録316番目の追加です。

本種はユーラシア大陸で繁殖して、冬は南アフリカからオーストラリア北部にかけての



地域に渡ります。日本には旅鳥として少数が飛来しますが、西日本の方が記録が多いようです。

シジュウカラ営巣!!

山野 豊 (上尾市)

支部事務局に転がっていた巣箱をいただきて帰ったのは3~4年前のことだったでしょうか。

シジュウカラのために十分に配慮したつもりで、地上から2メートルの高さの位置で、樅の枝の混みあった、人目に付かない場所を選んで巣箱を取り付け、いまかいまかと小鳥の営巣を心待ちにしていました。誰も寄り付きません。1年経ち、2年経ち、一向に変化なし。俺は鳥に嫌われるタイプだろうか、と少々ひがんでいました。

その樅が枝を張り隣家に気兼ねをして、昨年切ってしまいました。いずれ別の木に取り付けるつもりで、とりあえず巣箱をつげの木にくくりつけておきました。地上から1メートル。更に1メートルも離れていないところには郵便受けがあり、牛乳箱もあります。足洗い場もあり、大工さんは材料を近くに立てかけています。日に何回となく人が近づいています。巣箱は郵便屋さん、牛乳屋さん、大工さん、誰にも丸見えです。

おととい、カミサンが巣箱に鳥がいるようだ、ことごと音がするといいます。ばかな、雨だれの音だ、と一笑に付していましたが、さきほどやはり音がするというので、はなから鳥がいるとは思っていないので、気遣いもなく蓋を大きく開いてみました。驚きましたねえ、シジュウカラがうずくまっていました。あ~よかった、鳥に嫌われているかと思っていただけ、思い過ごしだった。嬉しかったですね。

大工さんにこのことを話すと、真顔になって、材料を移動しましょうか、と言ってくれたのですが、それは止めました。シジュウカラは周囲の環境を承知の上で、やってきているのだから、知らなかったときと同じように気を遣わずにおきましょう、と言うことになりました。

巣箱は改修中の我が家よりも立派で、大工さんの手を借りることもありません。

対馬の思い出

榎本秀和 (鴻巣市)

『しらこぼと』5月号の喜多峻次氏の一文を拝読し、対馬のことをふと懐かしく思い出した。

私が初めて対馬を訪れたのは、1995年のゴールデンウィークのこと。天候にあまり恵まれず、バードウォッチング的にはちょっと物足りなかった。おまけに対馬-福岡の飛行機が悪天候で飛ばず、急ぎよ、高速艇に変更して福岡まで戻ってきたという記憶がある。

しかし、私が、対馬のことを懐かしく思い出す、というのは、実はバードウォッチングにまつわることではない。探鳥だけでなく、その後も何回か対馬を訪ねているわけでもあるし…。

1995年の対馬訪問で、何が印象に残っているのかというと、それは厳原(いづはら)の町の堂々としたたずまいの素晴らしさである。宗(そう)家代々10万石の城下町に、今なおくっきり残る歴史の重み、蓄積された文化の豊かさ。そういったことに圧倒され、驚嘆してしまったのである。

対馬空港から帰ったのでは、厳原を通ることはなかった。たまたま高速艇に変更となったお蔭で、厳原の町並みを垣間見ることができたのだ。それ以来、いつかは厳原の町をゆっくり歴史散策してみたい、というのが私の夢のひとつとなっている。

「辺境の城下町」と侮るなかれ、である。



アオバズク (松村禎夫)



野鳥情報

岩槻市馬込 ◇3月17日午前11時、7号トラスト地でトラツグミ1羽、ついに憧れの鳥に自力で出会い、約5分間地上、枝の上、飛び方等を観察（本多己秀）。

岩槻市岩槻文化公園 ◇3月23日、オオタカ若鳥1羽。3月27日、元荒川のヒドリガモ約30羽の群れ中にヨシガモ♂1羽、結局、彼はヒドリガモ達と越冬したようだ。久しぶりにセグロカモメ成鳥1羽。このように内陸部に入るのは成鳥が多いのはなぜだろう。3月29日、竹林の林床でトラツグミ1羽、体を揺すっての独特の行動。マヒワ3羽、ジョウビタキ♀1羽、カケスの声など冬のようなのだが、一方、コチドリ、ヒバリのさえずり、シメの青みがかった嘴など確かに春です。33種確認。3月30日、猛禽が飛んで枝にとまったのを確認、ハイタカ1羽。また飛んで左手の木へ。近づいて双眼鏡で見ていたら、別の1羽が飛び出した。飛翔背面しか見えなかったが、こちらもハイタカか？ もしかして番い？ マヒワ7羽を見た後、ツバメ2羽確認。冬と夏の同居。37種確認。4月7日、テニスコート南縁で「ビワンビワン」と鳴きながら飛んでゆくマヒワ約30羽。4月12日、ツバメ飛び、ウグイスさえずり、マヒワ約30羽、シメ、カケス、アカハラ。4月14日、アオジもさえずっているが、まだマヒワ約30羽、シメ、カケス、アカハラ3羽十が集まっているのは渡りの兆候か。4月19日、コアジサシ2羽。4月22日、ツミ♀1羽上空を通過（鈴木紀雄）。◇4月18日午前8時頃、畑で離れてコチドリ2羽。アイリングも一際鮮やかな方の1羽が地面に伏せて姿勢を低くしたり、伸び上がったたりするようなポーズを繰り返し、もう一方の1羽がどンドンそちらに向かって行った。接近するとアイリングの鮮やかな1羽がお尻を上げ、相手に向けて尾羽を開きながら近づいて行くディスプレイ。公園東側の釣堀上空をコアジサシ2羽旋回。1羽がダイビングして小魚をキャ

ッチ。ヒヨドリ約50羽の群れが2回南西から北東へ渡っていった（藤原寛治）。

岩槻市岩槻公園 ◇3月27日、オジロビタキとルリビタキ♂。まだいた！（鈴木紀雄）。

岩槻市掛 ◇4月22日、ムナグロ350羽十が水の入り始めた水田に散在。その他キョウジョシギ1羽、オオジシギ1羽、コチドリ3羽、コガモ♂1羽♀2羽、チュウサギ約10羽、アマサギ1羽、タヒバリ3羽など。4月23日、ムナグロ400羽十確認、多い!! 群れ中にキョウジョシギ1羽、ウズラシギ1羽、タシギ2羽、コチドリ1羽（鈴木紀雄）。◇4月22日午前7時、ムナグロ194羽。田んぼ一面においていた。鳴き声が愛らしい。また、上空西へ50羽通過。別に10羽がどこかに降りました（本多己秀）。

蓮田市黒浜 ◇3月23日、上沼でツバメ今期初認。療養所内のいつもの場所でトラツグミ1羽（鈴木紀雄）。

蓮田市江ヶ崎 ◇4月18日午前6時20分頃、ウズラ2羽、農道で草の実を食べているのを1mまで車で接近。じっくりと観察しました。さすがにすれ違うと、ネギ畑に隠れました。4月21日、屋敷林のそばでシロハラ1羽、まだいました（本多己秀）。

蓮田市蓮田 ◇4月21日午前5時10分、田んぼでムナグロ50羽、上空通過。午前5時35分、上空でツミ1羽（本多己秀）。

蓮田市馬込 ◇4月21日、水の入った田んぼでムナグロ29羽。4月22日午前7時40分、ホオアカ2羽、水が半分入って黒く濡れた田んぼに30分位おっていました（本多己秀）。

蓮田市掛 ◇4月21日、水田でムナグロ152羽。「ピーョ」の声、美しい（本多己秀）。

蓮田市川島 ◇4月22日、乾田でムナグロ約45羽（鈴木紀雄）。

春日部市内牧 ◇3月28日、宮代側でオオタカ成鳥1羽が真上を通過。アカゲラ♀1羽、ベニマシコ♀2羽、ヒガラ1羽、シロハラ、アカハラ、カケス。3月31日、ベニマシコ♀1羽、コゲラが樹間で追いかかけ合い。恋の季節、やはり春です。4月22日、宮代側で低い笹の生えた林床でクロジ5羽十、小群での渡り途中か。4月23日、マヒワ約10

羽、カケスなど（鈴木紀雄）。

さいたま市緑区下山口新田 ◇3月26日、見沼の芝川第一調整池でツバメ約20羽を確認。彼らより高く飛び、「ジュリ、ジュリ」と声がするのでよく見たら、イワツバメ約5羽。草地上で左目がつぶれ、左脚の自由が利かず、それでも採餌にがんばるオオジュリン1羽。生き抜いて、北へ向ってほしい（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区大谷環境広場 ◇4月15日、タシギ2羽、オオジシギ?1羽（鈴木紀雄）。

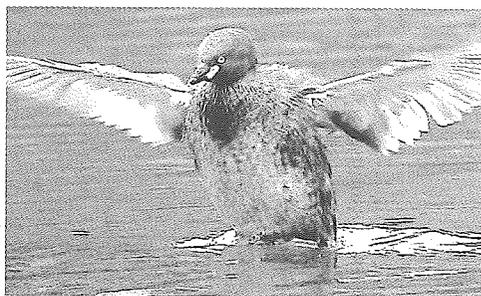
さいたま市緑区芝原 ◇4月16日午前6時頃、犬の散歩中、「チーチー」という声で道端を見ると、ヒヨドリがセキレイを押さえつけていた。犬と一緒に助けに向ったら、ヒヨドリはセキレイを掴んで飛び去ってしまった。あまり野鳥には詳しくないのですが、ヒヨドリだったと思います。ヒヨドリは小鳥を襲うのでしょうか（弓削田正巳）。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇4月20日、A区でムナグロ1羽。B区でチュウシャクシギ1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇4月24日午前6時30分頃、子供の森でサンショウクイを見つけました。キビタキ、オオルリ、センダイムシクイなどに会え、ご機嫌でぶらついていたらベテラン3人が真剣にカメラを構えているところに出会い、数年ぶりにお目にかかれました（渡邊嘉男一）。

さいたま市大宮区深作 ◇4月17日午前6時30分頃、シラコバト2羽、湿地のフェンスに2羽でとまっていた（本多己秀）。

川口市北原台公園 ◇4月23日午前6時50分頃、大きな声でさえずっていたので、双眼鏡を家に取りに帰り確認した。きれいな♂のキビタキ!! ウレシー！（伊藤芳晴）。



カイツブリ（編集部）

橘川市若宮 ◇3月11日午前6時30分、自宅近くの若宮神社の森でウグイスが「ホーホケキョ」とさえずる（初認）。3月26日午前7時45分、自宅近くのカツラの枝でアオジが涼しい声でさえずる。4月9日午前6時35分、若宮神社のケヤキにてツミ、「キキキ……」と鳴く。4月12日午前7時10分と20分の2回（各50羽十の大群）自宅5階の屋上すれすれで波を打ち、おしゃべりしながら、南西から北東へヒヨドリが渡っていった（立岩恒久）。

狭山市入間川 ◇4月5日、入間川河川敷グランド芝生でマヒワ20羽、シメ、ツグミと一緒に採餌。芝の新芽?の先端を盛んに突付いていた（久保田忠資）。

所沢市山口 ◇4月20日、お昼頃自宅室内からマヒワ30羽位の群れが西から東へ飛んで行くのを見ました。午後3時頃には、150m位東の森から200羽以上かと思われるマヒワの大群が飛んできて、目の前で1回旋回して北側に飛んで行くのをベランダから見ました。当地でこれほど大きなマヒワの群れを見たのは初めてです（小林ますみ）。

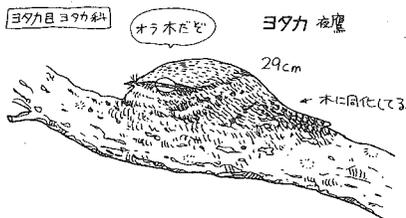
寄居町中間平緑地公園 ◇3月13日、マヒワ約20羽、ウソ♀2羽、ルルビタキ♀1羽。アトリ約10羽が地上での採餌と飛翔を繰り返していた（鈴木敬）。

表紙の写真

カルガモ（カモ目カモ科マガモ属）

表紙の写真は、特別な鳥である必要はありません。ごく身近な鳥でも、少し季節感が感じられれば、大歓迎です。カルガモはご存じの通り一年中見られますが、田んぼの花と並べば、それなりの季節の風が少し感じられませんか。珍しい鳥は駄目、というわけでもありませんが、ムクドリでもスズメでも、それなりの視点で見れば、素敵な被写体になるはず。優しくそっと写した、皆さんの写真をお待ちしています。 写真と文：編集部

行事案内



(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般100円、会員と中学生以下は50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出ください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月6日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8：40発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、樋口

見どころ：「カッコウ」の鳴き声はオオヨシキリにどう聞こえているのか？ 苦勞の多い托卵習性がなぜ進化したのか？ 自然には謎がいっぱいです。鳥たちはいま子育てで大忙し。桑の実やサクランボがなるのもこの季節です。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

〈差間コース〉

期日：6月6日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、大崎園芸植物園行き8：31発乗車にて、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、吉岡(洋)、若林、新井(勇)、赤堀

見どころ：梅雨を迎えて、そろそろ蒸し暑さも本格的になる季節ですが、鳥たちは子育てたけなわ。身近な鳥たちをじっくりと観察できる季節でもあります。楽しく歩きましょう。

注意：調節池工事のため、コースを変更する場合があります。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

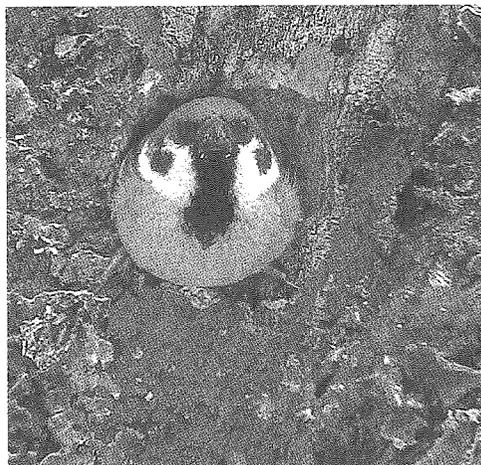
期日：6月13日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：中里、和田、森本、後藤、石井(博)、倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、飛田、大澤、新井(巖)

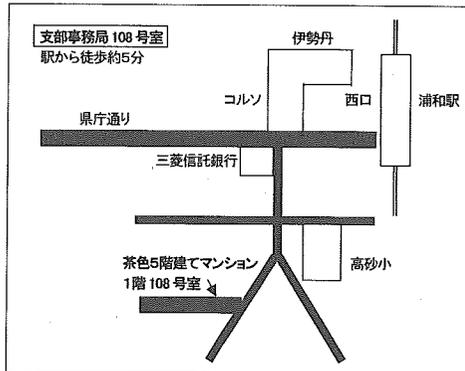
見どころ：田んぼの緑も色濃くなってきました。ツバメが気持ちよさそうに抜けて行きます。土手の上には心地よい風が流れ、カッコウの声をのせてきます。明戸堰では水鳥たちが子育ての真っ最中、そっとのぞかせてもらいましょう。



コゲラの巣をのっとったスズメ（編集部）

『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月19日（土）午後3時～4時ころ
会場：支部事務局108号室



さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月20日（日）
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、若林、新部、森(力)、小菅、赤堀
見どころ：見沼たんぼの梅雨の季節もいいものだ。小雨の桜並木を歩いていると、カッコウの声が聞こえてくる。芝川に出るとひとしきりオオヨシキリが鳴く。カルガモの親子連れが見られるのもこの頃。静かな見沼たんぼに、是非、どうぞ。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月20日（日）
集合：午前9時、東武越生線川角駅前
交通：東武東上線川越8：13→坂戸にて越生線乗り換え8：42発。または寄居7：53→小川町乗り継ぎ、坂戸にて越生線乗り換え。JR川越線大宮7：35→川越にて東武東上線乗り換え
担当：藤掛、高草木、青山、池内、久保田、志村、増尾、佐藤(壮)、杉原、原、藤澤、山田
見どころ：季節の移ろいで変化を見せる高麗川。濃くなった緑の川面に、カルガモ、

カイツブリ、コチドリ、イカルチドリ、カワセミなどの多くの親子を観察しましょう。河川監視道路を足元に注意しながら歩きます。

支部総会のご案内

日時：6月27日（日）
午後1時 受け付け開始
詳細は12ページをご覧ください。

■探鳥会での履物は

晴天の平坦地の道路を歩く探鳥会でしたら、スニーカーでも大丈夫です。

でも、木道を歩いたり、高低差のある山道を歩いたりする時は、意外とスニーカーは危険です。特に雨で少しでも濡れていたりすると、平坦地の小さな斜面でも大変滑りやすくなります。骨折事故も起きています。

靴底の切れ込みが深くて、滑りにくくなっているトレッキングシューズなどをおすすめしますが、長年履き慣れたトレッキングシューズの場合は、時々靴底の点検も。思い掛けなくすり減っていることがあります。

足元から安全な探鳥会を!!

シロハラクイナの情報(5月4日付け)

池内輝明

埼玉県ではないのが残念ですが、東京都練馬区にある光が丘公園で、東南アジアや琉球列島に多く見られるシロハラクイナがバーダーやカメラマンを楽しませてくれています。久々にデジスコ担いで撮ってきました。





行事報告

2月8日(日) さいたま市 大宮市民の森

参加：75名 天気：晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ
オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ キジ
クイナ バン タシギ キジバト カワセミ コ
ゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ
ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ
アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズ
メ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス
ハシブトガラス (33種) 立春も過ぎ、春めいた中
開始する。市民の森公園では鳥影は少なかったが、
芝川に出るとオオジュリン、クイナ、カワセミが
出現して場を盛り上げてくれた。特にカワセミは
3回程出現し、皆じっくり観察ができた。過去最
高の参加者数であったが、無事終了し、入会案内
も良く出た。(工藤洋三)

2月12日(木) 戸田市 彩湖

参加：51名 天気：晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサ
ギ カルガモ ヨシガモ オカヨシガモ キンク
ロハジロ ミコアイサ チョウゲンボウ クイナ
バン オオバン イソシギ セグロカモメ キジ
バト ヒメアマツバメ ヒバリ ハクセキレイ
タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス
シジュウカラ メジロ アオジ オオジュリン
カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ
ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 先月に
続き風のない日だ。カンムリカイツブリがもう群
れになり始めている。顔の色も赤くなってきた。
ヒメアマツバメが前回に続いて、また、2月では
3年ぶりにチョウゲンボウが出てくれた。ヨシガ
モ♂9、♀12とまとまり、ミコアイサも♂1、♀
3が見られ、最後を飾ってくれた。(倉林宗太郎)

2月15日(日) 本庄市 坂東大橋

参加：21名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガ
モ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ

オナガガモ ハシビロガモ トビ ノスリ ハヤ
ブサ チョウゲンボウ キジバト ヒバリ キセ
キレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨド
リ ジョウビタキ ツグミ セッカ ホオジロ
カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス (33種) 青空の下、ヒバリのさえずりを聞き
ながらスタートした。土手を越えるとすぐジョウ
ビタキが出迎えてくれた。アシ原では行く先にセ
ッカが出て、まるで道案内をしてくれているよう
だった。川原に出ると上空をハヤブサが飛んだ。
カモを狙って何度も行ったり来たりしていた。マ
ガモの群れに混じってヨシガモがかなりの数入
っていた。順光でしっかりと観察できた。初めての
人は歓声を上げていた。赤城おろしが強くなりス
コープを立てていられなくなったので早目に切り
上げた。(中里裕一)

2月15日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：53名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガ
モ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビ
ロガモ ホシハジロ キンクロハジロ バン キ
ジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキ
レイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ
シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エ
ナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ
カシラダカ アオジ シメ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 春一番
の吹いた翌日で、暖かい日差しの下でスタートに
なったが、静かで鳥の声もない。西田沼にカイツ
ブリが1羽。いかにもさびしい。予約のワシ・タ
カにもキャンセルされ、でも、アオゲラ♂が全員
で観察できたのは、これ最高のプレゼント。終わ
ってみたら37種。大沼でカワウの糞尿の臭気が漂
う中で鳥合わせ。梅見客が多く、今までの中で最
高の人出の様な気がする。その分だけ鳥が逃げた
かな。(内藤義雄)

2月15日(日) さいたま市 三室地区

参加：61名 天気：快晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガ
モ オナガガモ ハシビロガモ バン イソシギ
キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキ
レイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ

モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホ
オジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シ
メ スズメ ムクドリ ハシブトガラス ハシボ
ソガラス (30種) 風が強くなるという予報で、コ
ース選定にやや苦勞する。カモたちの多い芝川上
流・大道橋へ向かう。橋ではカワウやアオサギ、
カモ達がゆっくり見えた。振り返ると富士山や武
甲山が白く冬の青空にそびえて、皆さんが感動し
た。冬の自然が味わえた探鳥会であった。

(楠見邦博)

2月21日(土) 羽生市 水郷公園

参加：16名 天気：晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ オシド
リ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ハ
シビロガモ ホシハジロ オオタカ ノスリ キ
ジ クイナ バン オオバン タゲリ キジバト
カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキ
レイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホ
オジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カ
ワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) 春うら
らかな好天に恵まれた。スタートするとすぐにム
ジナモの池でオオタカが出迎えてくれた。柳の木
に止まって獲物を狙っているようだった。真っ白
な成鳥個体をじっくりと見る事ができた。隣の
柳の木ではベニマシコが真っ赤な衣装を披露して
くれた。その下ではタゲリ、クイナを見る事が
できた。植物園の池では例によってオシドリが顔
を出してくれた。途中、春を感じたのかウグイス
が枝先に出てきて、久しぶりに個体観察できた。
少人数のゆったり探鳥会を満喫する事ができた。

(中里裕一)

2月21日(土) 東松山市 物見山

参加：58名 天気：晴

カルガモ キジバト コゲラ アオゲラ ヒヨド
リ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エ
ナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ
ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベ
ニマシコ ウソ シメ スズメ ムクドリ ハシ
ボソガラス ハシブトガラス (25種) 大変だ！
春が来てしまった。流行性感冒のため鳥たちはど
こかに避難？ それでもアオゲラ、ウソが出現。

参加者全員が堪能できた。

(島田恵司)

2月21日(土) 上尾市 丸山公園

参加：21名 天気：晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カル
ガモ コガモ ヒドリガモ オオタカ ノス
リ チョウゲンボウ コジュケイ キジ タシギ
キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセ
キレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハ
ラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワ
ラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ
ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 今回も
タシギが出てのスタート。池のカルガモがいつも
より多かった。斜面を登る時シロハラとの声、見
た人は少なかった。滝のところでキセキレイとシ
ロハラを十分に観察できたのでホッとした。とも
かくトラフズクが来てないので代りに沢山の野鳥
に会わなければと焦りながら、カシラダカの群れ
に会い何とか無事に終了した。

(大坂幸男)

2月21日(土)『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：8名

海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、
佐久間博文、志村佐治、藤野富代、百瀬修

2月22日(日) 深谷市 仙元山公園

参加：42名 天気：快晴

コサギ カルガモ オオタカ ツミ コジュケイ
イソシギ キジバト カワセミ アオゲラ アカ
ゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨ
ドリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツ
グミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジ
ロ ホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ シ
メ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (33種) この時期、雪
で中止になったこともあったが、この日は雲一つ
ない快晴に恵まれ、春のような暖かさで、防寒着
を持って余し気味だった。瀧宮神社境内でアトリ、
シメ、ジョウビタキなどが同時に現れて、皆で右
往左往。どうにか全員見る事ができた。仙元山
は以前より鳥が少なく感じられたが、キツツキ3
種、ルリビタキも見られた。解散直後トラツグミ
が出た。多くの人が見られてラッキーだった。

(菱沼一充)



●支部総会開催のお知らせ

日時：平成 16 年 6 月 27 日 (日)

午後 1 時受付開始

午後 1 時 30 分～2 時 30 分 記念講演

午後 2 時 30 分～4 時 30 分 総会

会場：埼玉会館 7 階 7B 会議室 (昨年までの会場とは違います。ご注意ください。)

交通：浦和駅西口から県庁通りを県庁に向かって西進、徒歩約 5 分右側。

記念講演：本部普及と室景山誠、横田智の 2 名。

テーマ「日本野鳥の会の普及と事業の現状について」

総会議題：平成 15 年度事業報告と決算報告、平成 16 年度事業計画と予算案、平成 16 年度役員選出。

支部会員であればどなたでも参加できます。支部規約に基づいて前年度の支部活動を振り返り、今年度の方針や予算を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。総会終了後、支部事務局内で懇親会も予定しています。

●新執行体制になりました

4 月 17 日、日野市 WING で開催された理事会において、次の通り選出されました。

会長 柳生博 専務理事 佐藤仁志

常務理事 海老原美夫 中村滝男

俳優である柳生新会長は、NHK の自然番組のナレーターなどでも知られています。今までは顧問として会に協力する立場でしたが、これからは会の先頭に立ちます。

海老原も重責を担うことになりました。会長、専務理事とともに無給のボランティアでがんばります。支部の皆様のご協力をお願いします。

●今年度の県鳥獣保護員 2 名推薦

今年度も再任の福井恒人事業部長に加えて、新たに小荷田行男研究部長を鳥獣保護員として県に推薦、両名とも委嘱式を終えて活動を開始しました。

●久しぶりにごめんさいコーナー

3 月号 2 ページ「新たに WANTED・・・6 種」は「5 種」、3 ページ「主な参考文献」の中で「野田野鳥同好会 2001」は「同 1991」の誤りでした。

●6 月の事務局 土曜と日曜の予定

5 日 (土) 7 月号編集作業。普及部会議。(研究部は森林公園でモニタリング調査。)

12 日 (土) 7 月号校正 (午後 4 時から)。

19 日 (土) 袋づめの会 (午後 3 時から)。

20 日 (日) 役員会。

●会員数は

5 月 1 日現在 2,464 人です。

活動報告

4 月 10 日 (土) 5 月号校正 (海老原美夫、大坂幸男、喜多峻次、志村佐治、藤掛保司、山田義郎)。

4 月 18 日 (日) 役員会 (司会：玉井正晴、各部の報告・決算報告事業報告などの点検・その他)。

4 月 19 日 (月) 5 月号を発送 (倉林宗太郎)。

編集後記

今年も新三郷駅の跨線橋でチョウゲンボウが営巣している。双眼鏡を使ってさかんに出入りしている穴を観察していたら、中の様子が分かる微妙な位置と角度を見つけってしまった。プラットホームからなので、営巣には影響はないだろうが、人目は大いに気になる。(山部)

しらこぼと 2004 年 6 月号 (第 242 号) 定価 100 円 (会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社